

## 大相撲の歴史と深川⑤

## 「陣幕久五郎と横綱力士碑の建立」

江東区深川江戸資料館

大相撲とゆかりのある富岡八幡宮（江東区富岡 1 丁目）は、幕末を代表する力士である第 12 代横綱、陣幕久五郎が「横綱力士碑」を建てた神社です。本号では、横綱力士碑の建設に際して陣幕が作成し配布した刷物を紹介しながら、陣幕久五郎の足跡をみていきます。

## 1. 陣幕久五郎

第 12 代横綱、陣幕久五郎（1829～1903）は、出雲国（現島根県）出身の力士で、嘉永 3 年（1850）に初土俵、慶応 3 年（1867）に引退した幕末を代表する強豪力士です。徳島藩、松江藩、薩摩藩と主君を転々とし、戊辰戦争では薩摩藩の一員として従軍しました。

引退後は、大阪相撲の独立に尽力し、晩年は、神社の修復や各地の相撲にまつわる記念碑の建立等に没頭して「建碑狂」とも呼ばれたそうです。宇都宮蒲生神社前に初代横綱明石志賀之助<sup>あかししがのすけ</sup>碑を建てるなど、建碑に力を入れ、とりわけ、富岡八幡宮境内にある明治 33 年（1900）に建てられた「横綱力士碑」は、横綱の顕彰と歴史を伝えるため、また江戸相撲史上、強豪力士として名を残した大関・雷電為右衛門（1767～1825）を顕彰するために、各界の協力を得て奉納した晩年に最も力を入れた碑の一つです。

## 2. 横綱力士碑の建碑

陣幕は、相撲と関連の史跡（野見宿禰社他）がある富岡八幡宮に新たに碑を建てようと尽力します。明治 26 年（1893）に建設の出願をし、途中、資金繰りに苦しみながらも 7 年後の明治 33 年（1900）に横綱力士碑は落成を迎えます。

富岡八幡宮を選んだ理由については、境内に相撲の始祖である野見宿禰社と、陣幕と同郷であった<sup>しゃかがたけくもえもん</sup>積迦ヶ嶽雲右衛門に関する碑があること、過去に大相撲興行の場所であったこと等から、氏子であった縁もあり富岡八幡宮に建立したといわれています。

陣幕が富岡八幡宮に横綱力士碑を建立する際に、

資金を集めるため数種類もの刷物を作成、配布し、建碑のための助力を仰いでいます。明治 28 年（1895）に出された陣幕の自伝「陣幕久五郎通高事跡」もそのうちの一つです。なお、本碑は江東区指定有形文化財（歴史資料）です。

## 3. 史料紹介

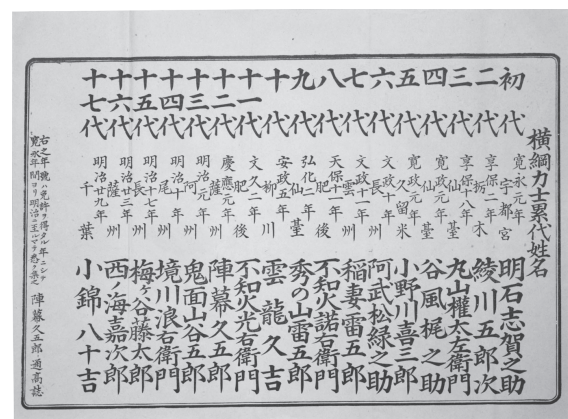
当館では相撲の展示を開催するにあたり、相撲関連の史料を蒐集しました。ここでは、そのなかから陣幕が作成した横綱力士碑建立にまつわる刷物を紹介します。現在開催中の企画展「相撲の歴史と本所・深川」においても随時入れ替えを行い、展示しています。

陣幕は薩摩藩のお抱え力士であったことから、戊辰戦争に従軍したこともあり、そのなかで西郷隆盛や黒田清隆をはじめとする多くの著名人と交流を図っていました。配布した刷物からは、建碑に際して、諸著名人にも寄付金を募っていたことなどがわかります。

## (1)「横綱力士累代姓名」(史料1)

陣幕の大きな功績として、現在数えられている横綱の代数を考案したことがあります。

本史料は、横綱免許が授与された力士を、代数・免許を得た年・所属藩（初代～3代までは出身地）・しこ名についてまとめたものです。横綱力士碑の建設にあたって、陣幕が作成し頒布したと考えられます。なお、現在数えられている横綱の代数は、この代数に基づいて数えられています。



(史料1)

### (2)「横綱記念碑建設之趣旨」

明治30年(1897)1月、陣幕が寄付を集めるために作成した建設の趣旨文です。相撲の沿革を述べるとともに、尚武の気風への尽力すること等が書かれています。賛成者には、近衛家や東久世家などの華族をはじめ、<sup>ふるかわいちべえ</sup>古河市兵衛といった実業家など、政財界の著名人の名が見られます。

そのなかには深川と縁のある渋沢栄一(深川福住町に住んだ実業家で、深川区会議長を務める)、奥三郎兵衛(深川の干物問屋で、深川区会議長を務める)、浅野総一郎(浅野財閥の祖、深川に浅野セメントを設立)、三野村利助(深川清澄に住んだ実業家、三井財閥中興の祖・三野村利左衛門の二女の養子)、岩出惣兵衛(深川で干鰯・魚油問屋を営む)、岸田吟香(深川に住んだ新聞業の先駆者、洋画家・岸田劉生の父)らの名前も見られます。

### (3)「口演」

陣幕が横綱力士碑(落成前は横綱記念碑とも)落成後の保存金の寄付を募っているものです。その賛成者には、<sup>ひがしくぜみちとみ</sup>東久世通禧(公家、枢密院副議長等を務める)や<sup>おしかわのりきち</sup>渋沢栄一(政治家、長野県知事や貴族院議員等を歴任)など48名が名を連ねています。

### (4)「深川八幡公園地横綱記念碑之図」(史料2)

横綱力士碑の完成予想図と考えられるものです。当初、横綱力士碑は八幡宮社殿裏の、2本の銀杏木の間建設されました。現在の位置に移動したのは昭和2年(1927)のことで、関東大震災後の復興整備を背景になされました。野見宿禰社や土俵での取組の様子がうかがえるものです。



(史料2)

### (5)「東京深川公園地八幡社境内横綱力士記念碑正面之図」

横綱力士碑の正面図です。太宰府の宮小路康文による「横綱力士碑」の文字とともに、発起人の陣幕久

五郎と、陣幕と因縁の相手であった<sup>しらぬいこうえもん</sup>不知火光右衛門の力士姿、裏面には行司の<sup>よしだおいかせ</sup>吉田追風と晩年の陣幕、そして歴代横綱の代数・しこ名が書かれています。現在、横綱力士碑の裏面には吉田追風は書かれておらず、完成予想図と考えられるものです。

### (6)「慶応元年正月大相撲」(史料3)

陣幕久五郎が横綱を始めて土俵入りをしている様子が描かれたものです。刀持(太刀持ち)<sup>あいおい</sup>に相生<sup>まつごろう</sup>松五郎と先払(露払い)<sup>しやちのうみうめきち</sup>に鯨ノ海梅吉を従え、立ち合いの行司は式守伊之助、年寄は秀ノ山雷五郎がつとめたことがわかります。

陣幕は、大坂では朝日山部屋、江戸では秀ノ山部屋に属していたことから横綱力士碑の側面には同様に、「発起人 秀の山雷五郎門人 陣幕久五郎土師通高 刀持 相生松五郎 先払 鯨ノ海梅吉」とそれぞれ名前が刻まれています。

なお、史料には「慶応元年正月大相撲」と書かれていますが、陣幕は慶応3年(1867)正月に京都五条家より、同年11月には吉田司家からも横綱を免許されています。



(史料3)

### (7)「番付」

寛政9年(1797)3月、御蔵前八幡宮境内において晴天10日の勧進大相撲興行の際の番付を、明治34年に碑の保存金を募るため再び作成したと考えられるものです。東の大関には陣幕嶋之助、西の大関には雷電為右衛門が名を連ねています。陣幕は、横綱力士碑を建立する際、横綱の顕彰とともに「無類力士」雷電の顕彰も兼ねているため、雷電が最高位であった西大関の番付を作成したと考えられます。

(主な参考文献)

野口勝一 編『陣幕久五郎通高事跡』(高知堂/1895)  
酒井忠正『日本相撲史』上巻(大日本相撲協会/1956)  
小島貞二『江戸勧進相撲と富岡八幡宮』(富岡八幡宮社務所/1994)